



多くの有権者は今の野党に政権担当能力がないと認識している。自民党は実績に基づいて安定した政権運営ができると主張できる。立憲民主党が意識すべきことは主に3つある。

1つは基本的な政策領域での信頼感だ。日米同盟を基軸とする外交安全保障や、財政破綻にならないような経済運営だ。

7割が従来を踏襲した安心感のある政策、3割で自然エネルギーなど独自色を出すくらいがちょうどよい。有権者は安心感を前提とした上での刷新を求めて

安心感を前提に刷新を

いる。野党は感覚をつかめているのか。

2つ目に党内ガバナンスの強化だ。離党や新党結成が相次ぎ、分裂を繰り返した。もともと同じ党だった国民民主党とは合流すべきだ。

民主党政権では沖縄県の米軍普天間基地(宜野湾市)の名護市辺野古への移設をめくり混乱が起き、社民党との連立が崩れた。党内、連立相手と一致団結できるのが重要だ。

最後に政権運営の経験がある岡田克也氏ら重鎮の活用だ。中堅や若手、女性など新しい顔も大切だが、対外的に安心感を与える存在も必要だ。ベテランは人脈や経験値もある。

民主党政権での成功と失敗を分析し、具体的な改善策を示すべきだ。